

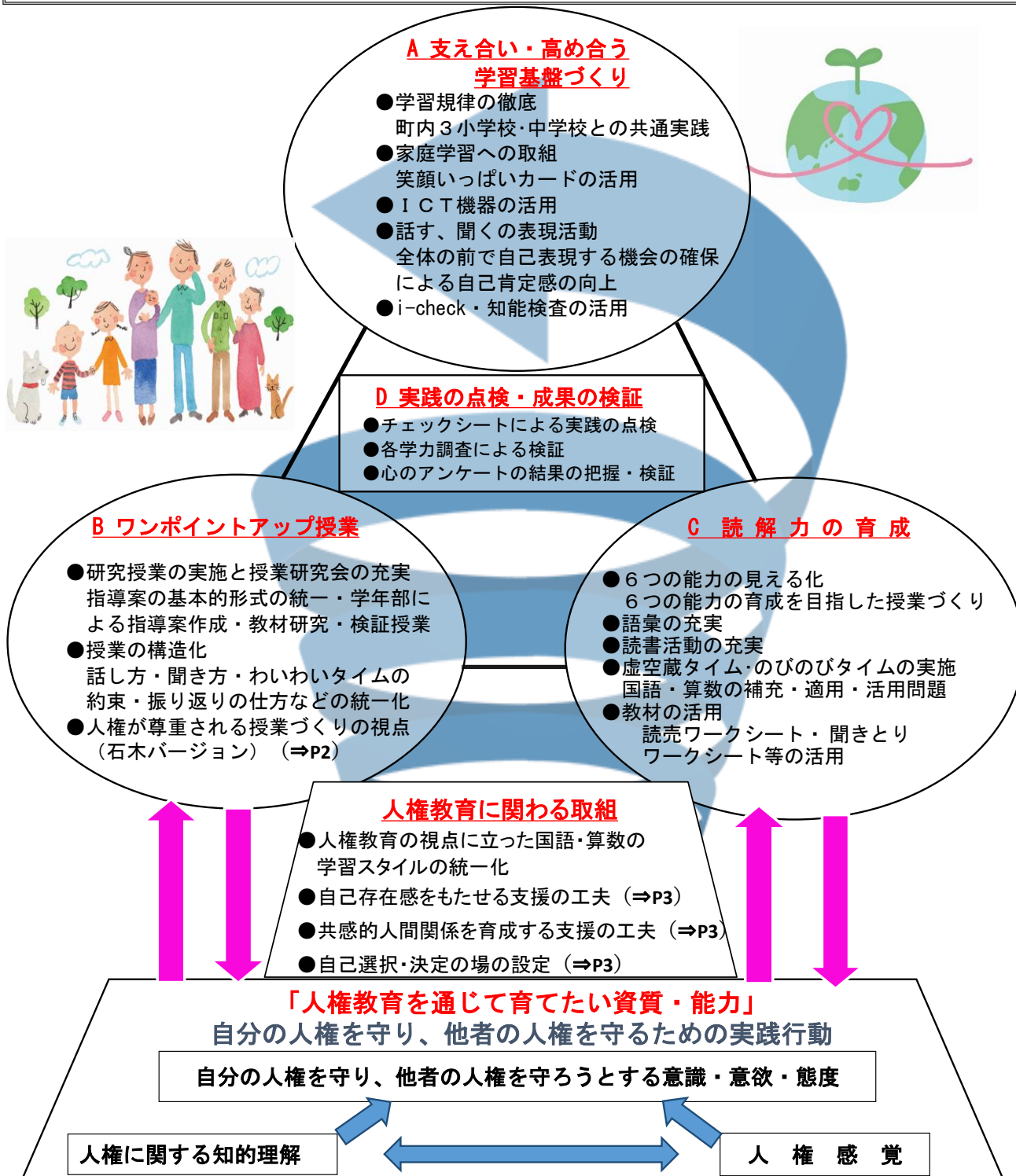
I 研究構想図

研究主題

自他のいのちを見つめて、豊かに表現し合い、共に高め合える児童の育成
～人権教育の視点に立った「できた」「わかった」の笑顔あふれる授業づくりを通して～

本年度の達成数値目標と結果 (⇒P4)

	目標	結果
<国語> ・ 標準学力調査平均正答率 (R3)	78.2% →79.0% 以上	→79.3%
<算数> ・ 標準学力調査平均正答率 (R3)	74.1% →75.0% 以上	→76.8%
・ 自己肯定感に関する独自調査 (R3)	84.0% →85.0% 以上	→90.2%



II 研究の実践(一部)

1 人権が尊重される授業づくりの視点(石木バージョン)

人権教育の指導方法の在り方について[第三次とりまとめ]の[人権が尊重される授業づくりの視点例]を基に、石木バージョンを作成し、授業の工夫・改善を進めている。

川棚町立石木小学校

視点	ねらい	ポイント・留意点
A. 自己存在感をもたせる支援を工夫する。	①「授業に参加している」という実感をもたせる。	(ア) 学習内容や活動に応じた座席の工夫や発問・応答のパターンの工夫を行う。 (イ) 児童生徒の既習事項や生活体験、興味・関心等を把握し、様々な視点から解決できるように課題設定の工夫を行う。 (ウ) 児童生徒の学習意欲や習熟の度合いを把握し、課題(教材)を準備する。
	②「自分が必要とされている」という実感をもたせる。	(ア) 意図的な指名等、一人一人が活躍する場や課題を工夫する。 (イ) 互いの発言を最後まで聴く習慣や誤答を大切にすることを身に付けさせる。 (ウ) 協力して活動できる場を工夫し、互いの考えや方法のよさに気付かせる。
	③教師自身が一人一人を大切にする姿勢を示す。	(ア) 一人一人の名前を呼び、目を見て話す。話をよく聴く。 (イ) 発言しない児童生徒に配慮するとともに、適切な支援を行う。 (ウ) 承認・賞賛・励ましの言葉を掛け、個に応じた改善課題や改善方法を示す。
B. 共感的人間関係を育成する支援を工夫する。	①「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。	(ア) 「誰にでも失敗はある」、「誰もがよさや弱さをもっている」という認識に立って、互いを尊重し合う人間関係づくりを行う。 (イ) 一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりを行う。
	②「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。	(ア) 他者の発言や作品のよさに気付き、学ぼうとする態度を育てる。 (イ) 自分の考えと異なる意見や感情を拒絶せず、それを理解する技能を育てる。 (ウ) 他者の気持ちや立場を考えて自分の言動を選択・構成する態度を育てる。 (エ) 互いの役割や責任を認め合う態度を育てる。
C. 自己選択・決定の場を工夫して設定する。	①学習課題や計画を選択する機会を提供する。	発達段階に応じて、複数の学習課題の中から自分にあった課題を選択する機会を設定する。
	②学習内容、学習教材を選択する機会を提供する。	児童の実態を踏まえて多様な教材・教具を準備し、選択の幅を与える。
	③学習方法を選択する機会を提供する。	(ア) 児童の実態を踏まえて児童の実態や学習内容に応じた学習方法を提示し、選択の幅を与える。 (イ) 課題解決のための情報や資料を準備し、その活用方法について適宜助言する。 (ウ) ワークシートやノート整理の方法、学習内容のファイルの仕方を助言する。
	④表現方法を選択する機会を提供する。	児童の実態を踏まえて多様な表現方法を提示し、選択の幅を与える。
	⑤学習形態や場を選択する機会を提供する。	児童の実態や学習内容に応じた学習形態や活動の場を多様に提示し、選択の幅を与える。
	⑥振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。	(ア) 児童の実態や学習内容に応じた学習成果のまとめ方を多様に提示し、選択の幅を与える。 (イ) 自他の学習課題や解決方法、学習の仕方やまとめ方等を振り返って交流する時間を設定し、他者の成果に学ぶとともに、今後の学習課題や方法について選択・決定できる場を工夫する。

2 人権教育の実践内容

児童主体の活動

あいさつ運動



6年生を中心に校門であいさつ運動をしている。「帽子をとって」「元気よく」挨拶することを目指し、その日の挨拶の様子を点数化して、意欲を高めている。

人権意識向上のための取組

人権週間

★人権集会



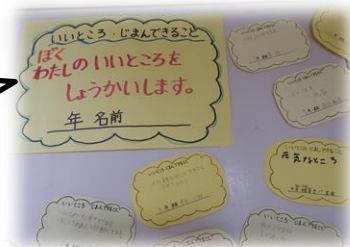
川棚町人権擁護団体の方に来ていただき、ペープサートのお話をしていただいた。また、各学級で人権学習をもとに「人権スローガン」を考え、発表した。自分らしさを大切にすること、勇気と自信をもつことの大切さを学んだ。

★心の宅急便

「がんばってるね」「すごいね」「ありがとう」など、友達のよさやがんばり、感謝の気持ちなどを伝える手紙を書いて、渡している。どの子も手紙をもらうと自然と笑顔になっている。友達のよさを発見する楽しさや、自分のよさを認めてもらう喜びを味わい、豊かな心を育てている。

★ 自分のよいところや自慢できるところの紹介

自分自身を見つめ直し、自分のよさや自慢できるところをみんなに紹介している。廊下に掲示したので、友達と一緒に立ち止まって見ては「すごい」「そうなんだ」「わたしと一緒に」などの知らなかったその人のよさを知ることができている。



児童理解のための取組

各種検査・アンケート結果の考察

本校では毎年行う「i-check」検査や学期に1回行う「人権アンケート(きらきらアンケート)」の結果を集計し、考察を行って、児童理解と指導に活かしている。

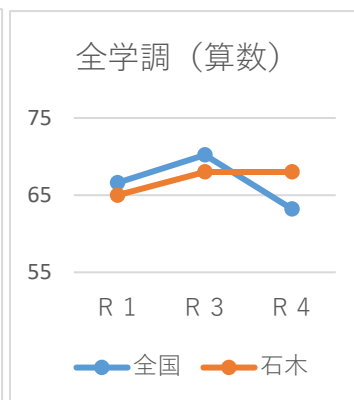
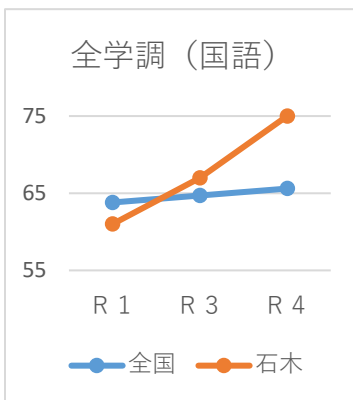
川棚町活性化事業



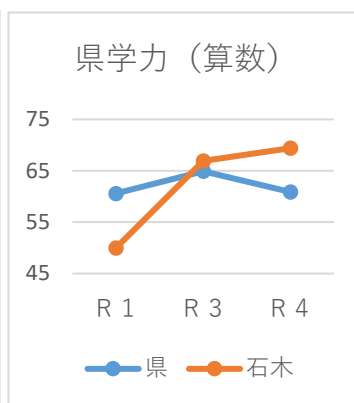
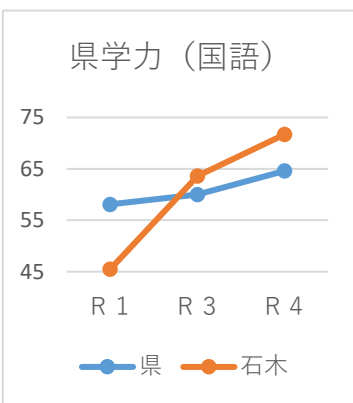
年3回、スーパーバイザーを招聘して、児童理解のための研修を行っている。描画の活動を全職員で体験し、活動を通じた児童理解の方法を学んだ。また3年生や5年生を対象に授業をしていただき、絵から見えた心の様子を教えていただいた。

Ⅲ 学力調査の結果・考察

全国学力・学習状況調査				
年度	教科	本校	全国平均	差
R 1	国語	61.0	63.8	-1.8
	算数	65.0	66.6	-1.6
R 3	国語	67.0	64.7	2.3
	算数	68.0	70.2	-2.2
R 4	国語	75.0	65.6	9.4
	算数	68.0	63.2	4.8

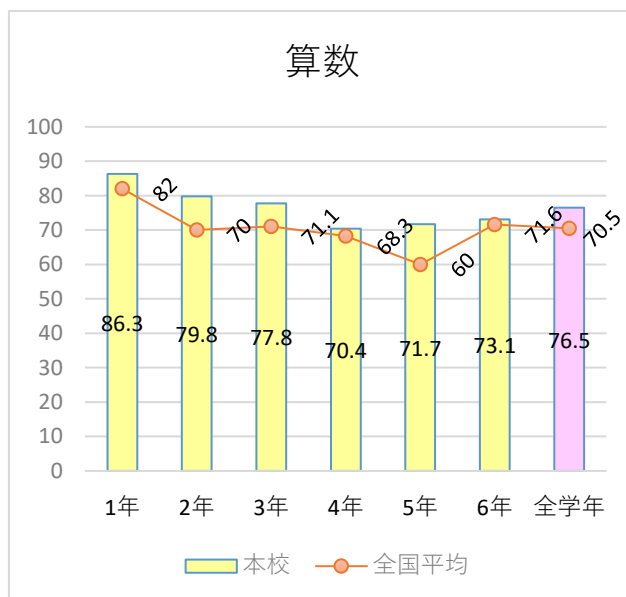
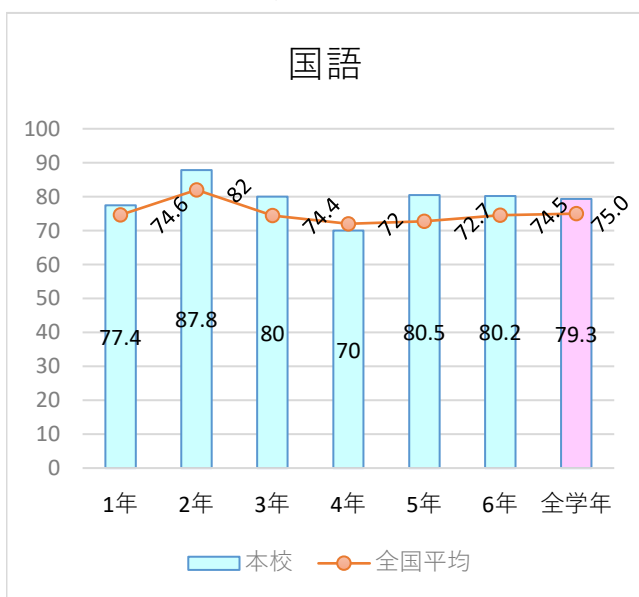


長崎県学力調査				
年度	教科	本校	県平均	差
R 1	国語	45.5	58.1	-12.6
	算数	50.0	60.6	-10.6
R 3	国語	63.6	60.0	3.6
	算数	66.9	64.9	2.0
R 4	国語	71.7	64.6	7.1
	算数	69.4	60.9	8.5



○本年度、全国学力・学習状況調査、長崎県学力調査、どちらも県や全国の平均を上回る結果となった。
○国語・算数どちらについても無回答率は0%であり、記述式の問題もあきらめず取り組む姿勢が見られた。

標準学力調査結果 (平均正答率 R 4. 1 2 実施)



○学校全体として、国語は、のびのびタイムや虚空蔵タイムなどの取組により力が付いてきた。算数は、学年間の差が大きく、全国平均を下回っている学年が見られる。
○各学年において学力向上プランを作成し、課題となる領域、下学年までの基礎的内容、活用力の育成を重点的に指導を続けている。

IV 研究の成果と課題

○・・・成果 ●・・・課題	研究構想図との関連			
	A	B	C	D
○ 「人権が尊重される授業づくりの視点」(石木バージョン)を作成し、活用することで、「自己存在感を持たせる支援の工夫」「共感的人間関係を育成する支援の工夫」「自己選択・決定の場の設定」を意識した授業づくりを進めることができた。	◎	◎		
○ 人権教育の視点に立った国語・算数の授業スタイルを提示し、単元や1単位時間の中で、人権を意識した支援や自己肯定感を高める手立てを明確に位置付けたことで、教師の支援の仕方や子どもたちへの声掛けの仕方に変化が見られるようになり、支持的風土ができてきた。	◎	◎		
○ 読解力の育成に関しては、RS支援を効果的に取り入れることで、課題の把握や文章の正しい読み取りにつながっている。			◎	◎
○ 各学年の「話し方・聞き方の約束」、「聞き方上手になろう」といった学び合いの約束や話型などを発達段階に応じて作成し、実践したことで、子どもたちが安心して自己表現できるようになり、共感し合う温かい雰囲気が出てきた。	◎	◎		◎
○ 学年に応じた振り返りカードの内容に、自己評価だけでなく他者評価を取り入れたことで、友達のよいところやがんばり、違う考え方などに気付くことができるようになってきた。		◎		
○ 笑顔いっぱいカードの取組が定着し、保護者とも連携することで、低学年でも自主学習に取り組む児童が増え、家庭学習の習慣化につながっている。	◎			
○ 全国学力・学習状況調査、県学力調査、標準学力調査の結果を分析し、それぞれの学年が具体的な学力向上プランを作成し学習指導を進めたことで、徐々に成果が出てきている。	◎	◎	◎	◎
● 自分の考えがまとまらなかったり、途中で分からなくなってしまったりした児童が、ペアやグループ活動の中でうまく言えない場面がまだまだ見られる。自信がない時でも、「自分はここまで分かったけど、ここから分からないから教えて。」と、安心して言うことができ、「じゃあ、途中から一緒に考えてみようか。」と寄り添うことができる共感的人間関係を築いていかなければならない。	◎	◎		
● 各学年の学力向上プランに基づき指導した結果は、12月に実施する標準学力調査で検証する。課題点については、学年末までに理解の定着を徹底する。				◎
○ 人権教育中央研修会の伝達講習を行い、人権についての基本的な知識や人権感覚について理解を深めることができた。	◎	◎		
○ SV(スーパーバイザー)の西村先生による講話では、描画技法を用いたコミュニケーション活動の仕方や治療効果について学ぶことができた。また、いくつかの学年で実施し、診断やアドバイスを生かすことができた。		◎	◎	
○ 玄関や職員室前掲示板には、人権に関わる温かい詩や語彙力を高める掲示物などを掲示したことで、子どもたちも興味関心をもって見ており、人権意識の向上に役立っている。			◎	
○ i-checkについては、夏休みに結果の分析を行い、各学年のよいところ、気になるところを書き出し、2学期以降に取り組みたい活動、高めたい活動などについて具体的に考えることができた。	◎			◎
○ 6年生や運営委員会を中心に、あいさつ運動やボランティア活動に取り組んでいる。その様子を放送で知らせることで、全校児童の意識の向上が見られるようになってきた。	◎			
● 人権アンケート(きらきらアンケート)は、結果の変容を比較・分析し、低い項目についてどのような手立てをとればよいかを話し合っていかなければならない。		◎		◎
● 今後も県教育センターの研修講座等を通して、職員の人権意識向上や人権の知識を得るための研修を実施していく予定である。		◎		